

カメラワークで 保育力アップ

著／平田智久(十文字女子大学名誉教授・越谷保育専門学校参与)
資料提供／清心幼稚園(東京都練馬区)

子どもの成長が分かる 一コマを

保育の中でカメラを扱うことが以前より増えたようです。時折その写真を見せてもらいますが、やはりピース写真が多いです。
いわゆるスナップでは保育者の自己満足です。どうせ撮るなら子どもの成長が顕著に分かる一コマにして保育に役立てましょう。
子どもたちの興味関心に寄り添う保育計画にも生かされます。複数担任ならそれぞれの見方や受け止め方の違いが理解し合えます。



事例1 熱中している 様子を

この写真は2018年10月の3歳児です。夏までは室内で活動することが多い子どもでしたが自分で見つけた興味に熱中していました。その熱中している様子、子どもの表情、手の動き、目線の方向などが見えるよ



うにいつもより下の角度から撮りました。右手には4・5歳が好んで使うスコップがしっかり握られ、左手には園庭から出てきた木片を持っていきます。この後この木片は園庭に埋められました。

積極的に行動ができるようになってきたことが伝わる写真は同僚の保育者にも説得力があります。と同時に保護者にも安心材料になります。

事例2 遊びが発展する きっかけの一コマ

この写真は2018年10月の5歳児です。

遊びをいろいろと発展してくれる男の子です。何日も前から花や葉を収集してジュースを作っていました。そして、この日は自分たちの部屋の



前に園庭用のイスなどを並べ、今まで作ったジュースだけでなく材料も一緒に置いてお披露目です。
それぞれ名札も作り終わると、仲間はもちろんですが、外でサッカーやタイヤで遊んでいる友達に向かって説明が始まりました。

写真には友達の様子が入っていません。写っていればよかったのですが残念。しかしそこが保育の中で撮る写真のポイントです。アングルにこだわることでより行動の流れや友達との関わり方の変化のほうが重要です。どんなジュースが並べられたか…などは部分を撮っておけば分かります。それより自分たちがやりたかったことをしっかりやり、それらを含めみんなに示したことから他児のごっこ遊びとつながり合っていたこと、更に劇的な活動へと発展していった、そのきっかけの一コマだったのでから。

事例3

日々変化する遊び

同じ頃の5歳児の保育室ではローブに布を洗濯ばさみで留めて「動くカーテン」＝舞台の幕を作り、イスを並べて客席にして劇ごっこが盛り上がっていました。洗濯ばさみと布の活動は4歳児の頃から大好きでした。変身も得意なことは言うまでもありません。

そうした子どもの活動グループが



事例3

有機的に連携していく環境になっていきました。グループの編成も日々変化しています。そのグループのメンバーを記録することを目的に写真を撮影しておきました。そのデータから遊びを通した仲間づくりが確認できました。あるときは観客に、またあるときは前出のジュース屋さんになつたりと、各々はその日の思いで参加していました。どこに所属しているかが問題ではなく、自分の役割が様々あることが一体感をつくり上げているようです。

事例4

テクニクよりタイミング!

同じ10月ですが、4歳児クラスでは「お化けごっこ」が盛んでした。薄く透けている布を見つけた女の子が何度もお化けになって登場します。室内で遊んでいた男の子の一人がそのお化けに好意的に対応している一瞬です。カメラの細かいテクニクよ



事例4

りタイミングです。こうした関わりの積み重ねが人間関係を豊かにしていくのですね。

レンズが子どもに向いていれば焦点は(多くのカメラで)画面の中心になっていきますからタイミングが命です。その意味で保育者の写真は子どもの成長を記録するのにプロのカメラマンよりの確です。

事例5

保育者の目線で…

この写真は2018年5月の4歳児クラスです。進級し、連休明け頃です。心の安定している子どもたち同士で遊びを見つけたようです。

「あっ。自分たちで遊びを見つけた



事例5

な! どんな話をしているのかな」と微笑ましい気持ちでシャッターを押します。写真を撮るぞ…と構えるのではありません。保育者目線で(子どもの喜びを喜びとして)シャッターを押します。そこがプロのカメラマンと違うところです。

失敗しても大丈夫

撮った写真が多少明る過ぎたり暗かったりしてもある程度はパソコンで直せます。手振れも気にしません。大事なことは保育者のあなたがシャッターを押していることです。

ただ気を付けておきたいことは、子どもの顔の表情に着目したいならカメラを覗いて撮らないことです。慣れてくるまで試してみましよう。

もう一つは思っている以上にシャッターは遅く動きます。子どもの呼吸に合わせてシャッターを押してみましよう。昔の写真とは違って失敗したものは削除すればよいのですから。

最後に、撮った写真は無許可で印刷して配ったり他の媒体に掲載したりすることはできません。あくまで保育の資料として扱います。



*写真を印刷・使用するには、肖像権、個人情報について、本人または保護者の承諾を得る必要があります。